

Ledy Home Doctor

レディアホームドクター

診察室

か し じょう みやくりょう
下肢静脈瘤

脚がだるい—
それは下肢静脈瘤が原因かも

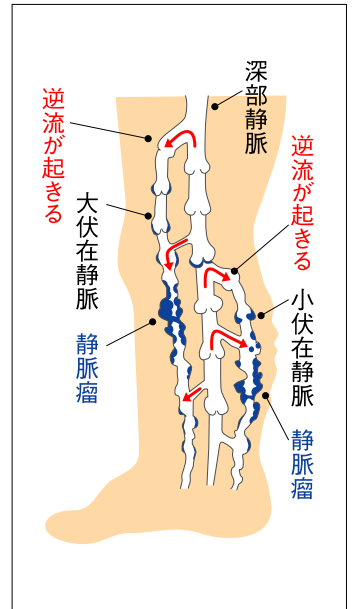
「夕方になると脚がだるくて重くて歩くのが大義になります」といつて外来を受診される患者さまは数多くいます。足がだるくなる原因はいろいろありますが、脚のむくみが原因になっていることが多いようです。心不全・腎不全・肝不全はもちろん、甲状腺の機能低下、肥満、栄養失調などがむくみの原因となります。これらは脚だけでなく全身のむくみで、診察、血液検査で比較的簡単に診断治療が行われます。また、整形外科の病気や動脈の病気でも同様の症状が出る場合があります。そのほかに忘れてならないのが「下肢静脈瘤」です。皮下脂肪が薄い方はご自分で気付きますが、皮下脂肪が多い方は静脈瘤が目立たないので気付かないことがあります。

下肢静脈瘤って？

静脈の弁が壊れ、

血液が心臓に戻れず逆流

下肢の深部静脈と皮下静脈の合流部に弁があり逆流を防いでいるために、血液は心臓



へスムーズに戻ることができません。この弁が閉まらなくなると、ちょうど大雨で決壊した川の堤防から水が流れ出て洪水を起こすように、血液があふれ出て脚にたまり、静脈が膨らむだけでなく、脚がだるい、重い、むくむなどの症状が出てきます。正確に診断するには超音波ドプラー検査が重要です。

ストリッピング手術

治療は弁が壊れている部位の静脈を縛り、さらに血液が逆流している静脈を抜き取る手術（ストリッピング手術）が標準的です。最近では、日帰り治療を行う医療機関があり、日常生活への影響も少なくなっています。

血管内治療

そのほかに血管内レーザー治療、ラジオ波治療、泡沫硬化療法があります。欧米やアジア周辺国ではこれらの「血管内治療」が主体になってきているようですが、わが国では、まだ

一般的ではありません。また、静脈の内側からレーザー

波、ラジオ波、硬化剤を用いて内皮細胞を破壊し、静脈を閉塞させて血液の流れを止める方法です。それぞれに利点と欠点があります。

当クリニックで下肢静脈瘤の治療後の患者満足度のアンケート調査をストリッピング手術と血管内レーザー治療で行ったところ、治療後の「痛み」のスコアでは血管内レーザー治療が優れていました。そのほかの身体的・精神的・社会的なスコアはどちらの治療法でも明らかに改善し、多くの患者さまが脚のたるさから解放されています。

まずは、下肢静脈瘤を専門に治療している医療機関を受診して詳しく説明を受けてみるかはいかがでしょうか。



解説医師

諸國 眞太郎 先生

医療法人社団操仁会理事長。岡山第一病院 下肢静脈瘤日帰りセンター長(1)。諸國眞太郎クリニック院長(2)。1981年岡山大学医学部卒業。末梢動脈疾患、下肢静脈瘤など血管外科に携わる。

■(1)岡山市高屋343 TEL.086-272-4088

■(2)岡山市錦町6-17 OWLSTYLE錦町2 4階
TEL.086-224-1313

URL <http://www.varix.jp> E-mail laser@varix.jp